

越谷市内のさまざまな石仏

加藤 幸一

「石仏」は「いしぼとけ」とも呼ばれ、拜むための仏様の像容を石に刻んだ石造物である。さらに像容の代わりにその仏様の名称が刻まれた文字塔も石仏とみなせるであろう。

一方、その他の石造物、例えば宝篋印塔、五輪塔、層塔、無縫塔（卵塔）など最後に「塔」の言葉がつく石造りの供養塔や墓標を兼ねた墓塔（墓石）などは、石仏とは違って石塔としてとらえるべきであろう。つまり信仰上の石造物を「石仏石塔」として呼ぶのが好ましいと思われる。しかしながら一般に「石仏」という言葉はよく聞かれるので、ここでは石仏石塔を包括する言葉とする。

江戸時代に造立された石仏は消滅したものもあるが、現代人に顧みられないまま今でも身近な場所にひっそりと存在し続けている。それらさまざまな石仏を見ることによつて、当時の庶民の信仰や生活の様子を垣間見ることができ、そればかりか石仏に刻まれた人名などの文字を丹念に解読していけば、郷土の歴史を解明する貴重な歴史的資料ともなる。

今や石仏の存在すら無関心となっている。そして開発の波にのつて石仏はこの世から消滅しつつある。そこで私はこれらの歴史的遺産を正確に記録し、後の郷土史の解明の基礎資料として残したいと思い、平成五年から越谷市内の石仏調査を本格的に始め、平成十九年には市内全域の悉皆調査を終了した。その後も見落としした石仏の追加改訂を進めている。その調査報告書が越谷市立図書館二階の書庫にて公開されているのでご高覧願いたい。

次に、市内に見られる像容が描かれた石仏を紹介する。

1. 庚申塔

六十日に一度やってくる庚申の日に人々が集まって徹夜して夜を明かすという信仰が全国各地で見られた。その記念のために建てられたのが庚申塔である。代表的な庚申塔は青面金剛像庚申塔で、図1の①のように足元に鬼を踏み潰して腕が六本もある青面金剛という怖い仏様が描かれている。上には太陽と月、下には三猿が描かれ、二鶏も描か

れることもある。石仏に三猿が描かれていれば庚申塔であると判断できる。

この図は増森の森西川集会所にある庚申塔で、青面金剛像庚申塔としては越谷市内で最古（貞享四年、一六八七）である。天嶽寺入口の道路沿いには、その青面金剛像庚申塔が多く見られる塚がある。

その他の庚申塔としては、庚申様を描く代わりに文字で「庚申」（図1の②）とか「青面金剛」（図1の③）と書かれた庚申塔や「猿田彦」（図1の④）と書かれた神道系の庚申塔が見られる。青面金剛像庚申塔が出てくる前には江戸時代初期に三猿のみが描かれた三猿庚申塔（図1の⑤）、寛文五年・一六六五、寛文四年・一六六四）も見られた。

2. 六地藏

「お地藏様」は正式には地藏菩薩といい、頭に冠をかぶり菩薩の姿をするのが本来である。しかしながら庶民に親しみやすいお坊さんと同じ丸坊主の姿になっている。地藏は子どもを大切にするため子どもの墓石にも使われる。

この地藏が六人集まったのが六地藏で、寺院の門前や墓地の入口に並んだ六体の六地藏としてよく見かけられる。

図2は、六地藏を一石にまとめて描いた石仏である。杖を持つ地藏が左手で子どもを抱え、足元では幼い子どもがすがりついている。他の地藏は、宝珠（左側面）、数珠（裏面）、香炉（右側面）、幡（裏面）、天蓋（真裏面）をそれぞれ持

っている。

3. 観音（聖観音）菩薩像

「観音様」は正式には観音菩薩といい、図3の①や図3の②のように手には蓮の花を持っている。菩薩は男性でも女性でもなく、男女の庶民を救う性を超えた存在である。腕は二本であるが、腕が複数本あったり、顔が複数面あったりする変化した観音菩薩も見られる。変化しない本来の観音菩薩を、変化した観音菩薩と区別して聖観音菩薩とも呼ばれる。

4. 十一面観音菩薩像

図4のように、本来の観音菩薩と違った姿をしている。頭上には顔が十一面（本面を含めて十一面とすることもある）備えている。さらに頭のとつぺんには阿弥陀様が見られる。

5. 千手観音菩薩像

千手観音菩薩は正式には「千手千眼観音菩薩」といい、頭上には十一面の顔、腕は千本、それぞれの手の平には目がついていて千の目があるという。十一面観音菩薩のさらに変化したものである。実際には千本の腕は刻まれず、中央は合掌し、左右には二十本ずつの腕となっている。石仏では、図5の①や図5の②のように、さらに数本の腕に省略する。

6. 如意輪観音菩薩像

本来の観音菩薩を変化したものである。図6のように右膝を立て、右手で頰杖をし、首をややかしげる「輪王座」という座り方をしている。右手には菩薩名の通り「如意宝珠」という玉と、左手には車輪の形をしている輪宝を持つている。なお、腕が二本の如意輪観音像は女性の墓石に利用されている。

7. 十九夜塔

満月の四日後の月である十九夜のお月様が見られる夜に行われる月待行事の記念として造立された石仏である。十九夜の本尊は如意輪観音であるとして、図7の①や図7の②のように「十九夜」の文字の他に如意輪観音像を刻んだ石仏も見られる。

8. 二十三夜塔

「真夜中の月」とも呼ばれる下弦の月が見られる真夜中に行われる月待行事の記念として造立された石仏である。二十三夜の本尊は勢至菩薩であるとして、図8のように「廿三夜」の文字の他に合掌した勢至菩薩像を刻んだ石仏も見られる。

9. 馬頭観音菩薩像

頭上には馬頭を置き、顔は一面か三面、腕は複数本見られる(図9の①、図9の②)。菩薩はやさしい顔をしているが、馬頭観音に限ってこわい顔つきとなっていることが

多い。運送馬や農耕馬が普及するにつれて江戸中期頃から馬頭観音の信仰が盛んになった。なお、腕が二本の馬頭観音像は死馬のための供養塔で、死馬捨て場などに見られた。

10. 六観音

六観音とは六種類の観音のことである。どの観音を六観音に入れるかは一定していない。図10では、上段には十一面の顔と千本の腕があるという千手観音、右膝を立てて頰杖をしている如意輪観音、十一面の顔がある十一面観音、下段は三面多臂で斧を持つ准胝観音、蓮の花を持つ聖観音、多臂で羅索を持つ不空羅索観音と思われる。

11. 釈迦如来像

座禅を組み両手で禅定印を結んで瞑想に入っている釈迦如来像である(図11)。ここは江戸時代にあった福王寺の山王神社跡と思われる。

12. 阿弥陀如来像

図12の①と図12の②は、親指と人差し指で輪を作って印を結んでいる阿弥陀如来の像である。①の方には上部に刻まれた梵字のうち中央は阿弥陀を示す「キリク」がある。②の方は阿弥陀四十八誓願にちなんで阿弥陀像の両脇に四十八人の人名が刻まれている。

13. 不動明王像

怖い顔をしていて、右手には煩惱を断つ剣を、左手には煩惱を縛る羅索と呼ばれる綱を持っている。光背は火炎で

ある。図13の不動明王像の台石には「是より大きかみ」と刻まれ、大相模の不動尊（大聖寺）への道しるべとなっている。

14・不動明王三尊像

図14は明治十八年（一八八五）に造立された石仏で、中央には不動明王、両側にはやさしい顔つきの矜羯羅童子（向かって右側）と怖そうな顔つきの制多迦童子が描かれている。これと同じ図柄で同じ大きさの石仏が野田市の愛宕神社の境内にも見られる。文久二年（一八六二）に造立されたものである。

なお図14は、平成六年にスケッチしたものであるが、その後、事故にあつて斜めに割れたらしく、補修されて現在に至っている。

15・十三仏

初七日から最後の三十三回忌の十三回ある法要（法事）のそれぞれの主尊となる十三人の仏様が描かれている。図15の図で、最上段には虚空蔵菩薩、二段目には向かって右から大日如来、阿閼如来、阿弥陀如来、三段目は薬師如来、観音菩薩、勢至菩薩、四段目は弥勒菩薩（本来あるべき宝塔がここにはなぜか描かれていない）、地藏菩薩、普賢菩薩、最下段は不動明王、釈迦如来、文殊菩薩の合計十三人の仏様である。

16・弘法大師像

図16は、八十八箇所の弘法大師霊場巡りの巡拝塔にある弘法大師像である。手には金剛杵と数珠を持っている。下には水瓶（水を入れる器）と木履（木製の履物）が描かれている。かつては、一番の西新井大師からスタートして、南足立郡、北足立郡、南埼玉郡の三郡にまたがる弘法大師を安置している八十八箇所のお寺を巡る行事が庶民の間で行われていた。ここ蒲生の光明院は十五番目である。

図1の③

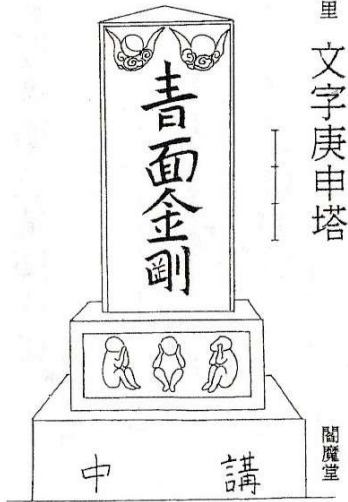


図1③



図1の②



図1②



図1の①

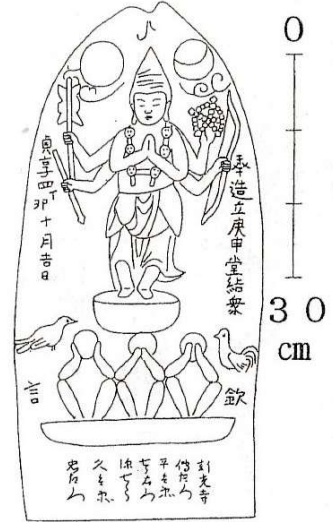


図1①



図1④

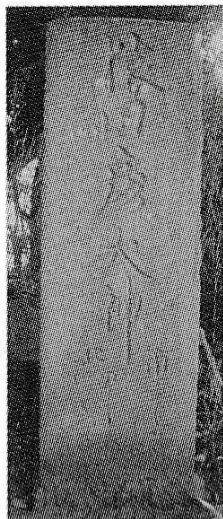
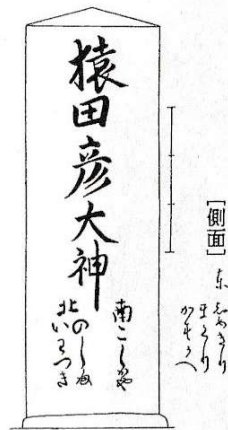


図1の④



越ヶ谷
道標付き猿田彦文字庚申塔
天嶽寺入口

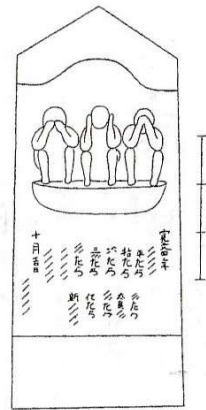


図2



図1⑤

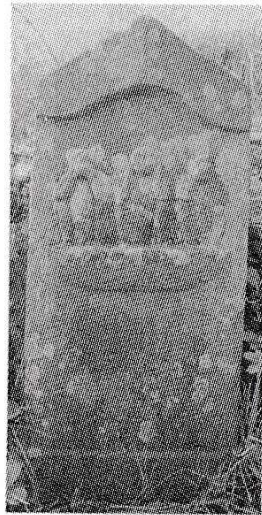


図1⑤



図3①



図5の①



平方

千手観音像付き念仏塔

寛山坊墓地「山谷共同墓地」

図4



船渡

十一面観音菩薩像

船渡無量院 無縁仏墓所

0
30
cm

図3の②



蒲生

観音菩薩像墓塔

蒲生の光明院 道路沿い

図5①



図4



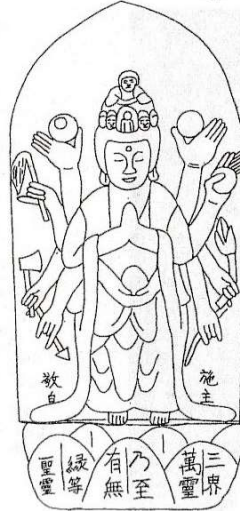
図3②



図5②



図5の②



船渡

千手観音菩薩像

船渡無量院 無縁仏墓所

図7の②

花田



図7②



図7の①

増森



図7①

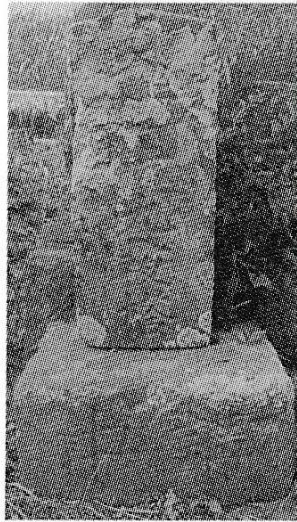


図6

平方

如意輪観音像庚申塔

覚山坊墓地(山谷共同墓地)



図6

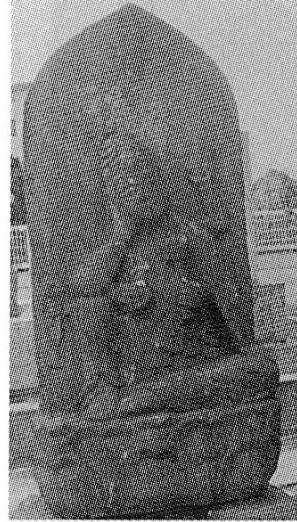


図8



図8

越ヶ谷

二十三夜塔



図13



茶屋通り神谷家（蒲生一―五―一）路傍

蒲生 不動明王像付き道標

是のまゝ
茶屋通り

図13



図12
の②



閻魔堂

上間久里 阿弥陀如来像付き念仏塔

図12②

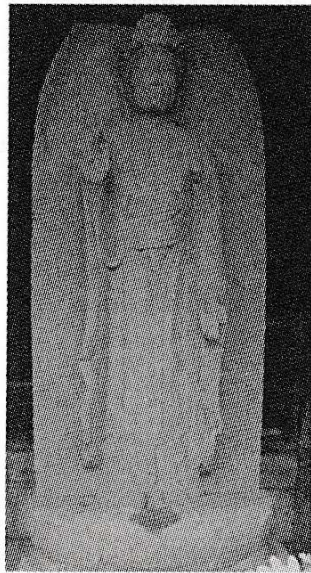


図12の①



(北東)

花田 阿弥陀像付き念仏塔 西円寺
薬師堂そば

図12①





図15

平方
十三仏像容塔

戸崎墓地
墓地入口付近

図15

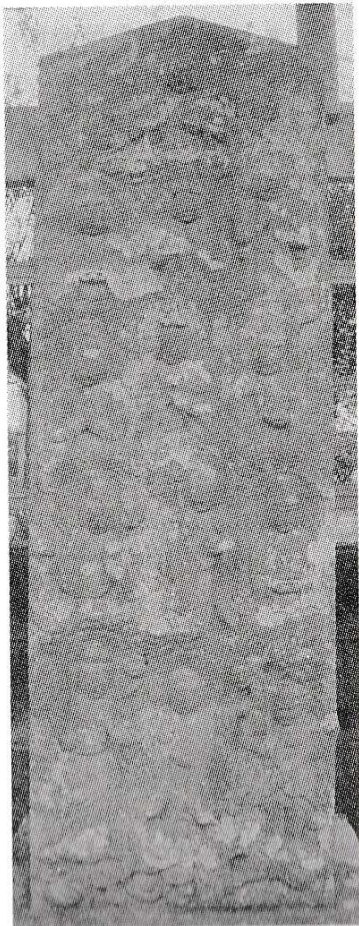


図14

不動三尊線刻像(明治十八年)

世
話
人
上原通夫
上原金治
上原勝治
吉

社威神

世
話
人
田川新三
田川松五
田川佐兵衛

図14 上間久里閻魔堂南東側道路沿い

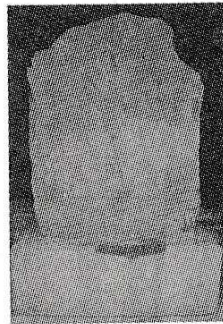


図16

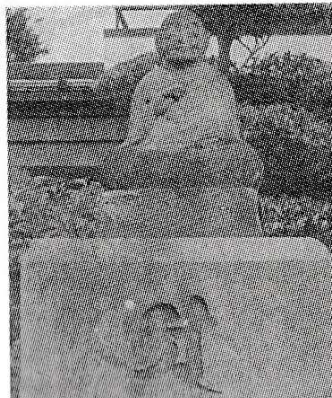


図16

蒲生
弘法大師像付き巡拝供養塔

弘
四國西國秩父後東
新四國八十八箇所
巡

蒲生の光明院
道路沿い

